

夕陽會報



12月のペイエリア

第236号



◇ 巻頭言 ◇

「纏足の頃」考

副会長 島津 彰 (昭和48年卒)

「纏足(チャンズウ)の頃」とは、芥川賞受賞作(第17回…1943年《昭和18年》上半期)で、作家は函館師範学校を昭和四年に卒業した石塚喜久三氏である。当時の中国の奇習であった「纏足(てんそく)」をモチーフに「蒙疆文学」(内蒙古)に発表した作品で、モンゴル族と漢族の混成家族の悲しみや葛藤を瑞々しく描写している。横光利一氏は

「蒙古悲劇ともいうべき太い筋骨の逞しさには、歴史小説としての古典的な大衆性も十分にある。何よりも優れたところは大通俗味を帯びた手いっぱいの問題を、祈りの真心を込めて一貫させた歌調の正しさにあるかと思う。」と称賛している。この時は檀一雄氏の「吉野の花」も候補に上がっていた。

石塚氏は小樽花園尋常小学校の訓導を経た後、どの様な夢を描いたかは定かではないが、昭和十五年に内蒙古に渡る。当時の世相はノモンハン事件後で、米内内閣の総辞職や大東亜新秩序建設の方針が打ち出されるなど、日本の閉塞感打開のために外地に活路を見出す国策が取られるなど、混沌とした時代であった。

昭和十八年十二月発行の同窓会名簿では、内蒙古・張家口鐵路局総務部文書課に勤務(現在の北京の北方で、他に二名の同窓が勤務)し、張家口の文芸誌「蒙疆文学」の中心メ

ンバーとして活躍していた。内蒙古は満州と隣接しており、蒙古連合自治政府の位置づけであったが、実質は日本が実権を握っていた。

前述の同窓会名簿には、大東亜共栄圏の時代背景のなか、外地(日本領や植民地)の勤務者がみられる。台湾四名、満州八十九名、朝鮮七名、内蒙古七名、南洋(パラオ、グアム等)七名、樺太十七名、択捉島、齒舞各一名である。この時代の同窓は、若者の特権である様々な夢を抱き、外地での生活に邁進した時期であり、母校の国際化の第一波と言えるだろう。戦前・戦中の第一波の同窓は、国際社会貢献もさることながら、国策としての進出の背景があり、寮歌にある「五大州も何かある」と「猛虎の意気」が基底にあった。

現在の母校に眼を転じると、国際文化・協力専攻の学生を中心に、国際社会における多様な価値観、文化・歴史を学び、さらに留学制度を利用して、生き生きと学ぶ学生が多数いる。この事を見聞きするにつれて、私は母校の国際化の第二の波の到来と考えている。

現在の後輩に望むことは、先輩同窓が果敢に挑んだ意気込みを忘れずに、戦前とは別の真の国際協調に基づく研鑽を期待したい。同窓としてはささやかであるが、支援の一助を担いたいものである。

栄誉に輝く同窓



○令和五年度文部科学大臣表彰（教育者表彰）
皆様のおかげです

登別市立緑陽中学校長 野崎 均
(昭和61年卒)

このたび、令和五年度文部科学大臣表彰（教育者表彰）の栄に浴することとなりました。私のような者がこのような賞を受けることとなり、大変恐縮をしているところでございます。この賞をいただくこととなりましたとき、真つ先に「縁尋機妙、多逢聖因（えんじんきみみょう、たほうせいん）」という言葉を思い出しました。「縁尋機妙」とは、「よい縁がさらによい縁を尋ねて発展していくさまはまこと妙なるものがある」という意味で、「多逢聖因」とは、「よい人に交わっているとよい結果に恵まれる」という意味です。同窓を思うとき、いつも心にあった言葉でした。むずかしい学年を受け持ったときもありましたし、学校以外の仕事に携わったときも長くありました。うまくいかないことがほとんどでした。そんなとき、そばにいてくれたのが、同窓の皆様でした。管理職を目指すようになったときもそうでした。同窓の方々とのつながりも次第に広く強くなり、縁がさらに縁を呼んで、私にとつとてとても大きな支えとなっていました。そうしたつながりがあつたからこそ今回の受賞となりましたし、還暦を迎える現在まで、何とか教育に携わることができました。最近、「十八史略」にある「四時の序、功を成す者は去る」という言

葉にも出会えました。「四時」というのは春夏秋冬のことで、「序」というのは順序のことだそうです。「季節がそれぞれの役割を終えると、次の季節と交代するように、人もそれぞれの役割を果たして、次の人にその立場をゆずっていくべきである」という意味だと知りました。たくさんの人たちが、それぞれのタイミングでこの言葉にふれ、思いを確かめたり、考えを整えたりしてきたのでしょう。だからこそこの言葉は長い年月を越えて語り継がれ、今、私のもとへも来てくれたのだと思います。今は「次は、だれかにとつての『よい縁』という存在になろう」という気持ちでいます。同窓の皆様が、私にそう教えてくれました。今も年に一度は函館の地を訪ねます。皆様もそうかもしれないですが、私はそのたび何か力が湧いてくる感じを覚えます。若い時期を過ごした地だからかもしれません。それ以上に、先輩たちが培ってきた夕陽魂が亀田の精霊とともに私の心に入り込んでくるのだと思います。そして函館を離れるときには臥牛山が背中を押してくれます。だから、これからもがんばれる気がしています。このたびは本当にありがとうございます。



○令和五年度北海道教育功績者表彰
同窓の皆様へ感謝して

江差町立江差小学校長 谷口 光伸
(昭和62年卒)

この度、令和五年度北海道教育功績者の栄に浴することとなりました。私のような浅学非才の者にとりましては身に余る光栄であります。ともに大変恐縮しております。このように功績者に選ばれましたのも、江差町教育委員会をはじめ、多くの方々のおかげです。支援助導があつたからと心より感謝申し上げます。授賞式前日には、夕陽指導主事等会の皆様による「受賞を祝う会」を開催いただき、風間会長をはじめご参加の皆様より過分なるお祝いの言葉を頂戴し、この上ない喜びでありました。会場に掲げられた夕陽会旗を目にし、夕陽讃歌を歌いながら、同窓会のありがたみをしみじみと味わいつつ熱い思いがこみ上げておりました。企画・運営に携わりました皆様へ改めて感謝申し上げます。当日の授与式は、厳かな雰囲気漂う中、ホテルポルスタール札幌で行われました。道教委幹部職員を前に私を含め八名が倉本博史教育長より表彰状と記念品をいただきました。緊張感と高揚感の中、ご臨席の方からあたたかい拍手をいただき、大変光栄なひと時でありました。

今回の受賞にあたり、これまでの実践を振り返りますと、新採用教員として昭和六十二年四月江差町立南が丘小学校に着任以来、夕陽会の諸先輩からのご指導・ご助言、同期の絆、後輩の助けがあつて今の自分があると思っております。特に、私の教頭職や校長職における学校運営や学校経営には、常に北海道教育大学附属函館小学校、同窓館中学校の存在は欠かせません。受賞理由である道徳教育やICT教育の実践面では、複数回にわたり出前授業や指導案検討、研究大会の運営方法等について学ばせていただきました。助けられました。頼りにしていました。知恵袋でありました。現任校である江差小学校においても現在、附属函館小学校と研究連携協力校として、お知恵をいただいているところですが、二十一年間の管理職生活を通して学校経営は人との出会いを大切にすることから思っています。私たちの仕事は人との関わりの上で成り立っているからです。結びとなりますが、幾つになっても同窓の先輩、同期、後輩と一緒にあります。今後も夕陽会が私たちが蘇ります。今後も夕陽会が私たちが同窓の絆を確かめ合える場であるとともに、会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶といたします。



渡島支部だより

渡島支部幹事長 山本公作
(平成2年卒 七飯町立藤城小学校長)

昨年七月一日、四年ぶりに夕陽會全国支部長会議・本部総会・大懇親會が参集型で開催されました。多くの会員の皆様がお喜びになられたことと推察いたします。私自身、同窓の皆様方とお会いできることを心待ちにし、支部長と共にその全てに出席させていただきました。まだコロナ禍の余波が残る中でしたので、人数制限を気にしつつも、我が渡島支部は、本部に隣接する地の利を生かし、四十名を超える会員が大懇親會に参加しました。そして、渡島支部の会員同士の再会のみならず、他支部の皆様との再会の喜びを分かち合いました。各テーブルでは、各々の近況や各地・各校の魅力を伝え合うなど、話に花を咲かせていました。幸せで豊かなひと時を得ることができ、喜びもひとしおでした。今回応援団の復活はありませんでしたが、私は、二十年近く前に、応援団の太鼓担当としてこの会に携わらせていただいたことを思い出し、感慨深さを感じながら参加しておりました。今年六月二十九日に、更に多くの同窓の皆様とお会いできることを切に願っております。

さて、母校を卒業・修了された同窓の皆様にはよくご存じのことではあります。渡島管内には、函館以外に、一市九町があり、それぞれが特徴的な魅力を有しています。各市町、各学校は、その特色を生かして優れた教育活動を実践しています。しかしながら、児童生徒数の減少による学校の統廃合が進み、今年度の学校数は、公立の小学校三十六校、中学校十八校、義務教育学校一校とその分校一校、小中併置校一校の、計五十七校でした。三月末には更に小学校二校が閉校するため、今年四月には、五十五校となります。児童生徒数・学校数・学級数の減少、母校以外の大学出身者の増加に伴い、渡島支部の会員数も減少傾向にあります。さらに、会員のいない学校、管理職会員のいない学校が増え、コロナ禍以前のように盛大に事業を行うことが難しい状況にあり、事業運営の改善を進めております。

先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代ではありますが、先輩方から受け継いできた伝統を糧に様々な課題を乗り越え、本部・各支部の皆様のご指導を賜りながら、持続可能な活動を見だし、渡島支部会員一人一人に活力と潤いをもたらす会の運営、渡島の地域や教育の発展の寄与に努めてまいります。



空知支部だより

空知支部長 有村宏紀
(昭和63年卒 夕張市立ゆうばり小学校長)

令和六年の幕開けは、能登半島大地震や羽田空港における航空機事故など衝撃的な始まりとなりました。犠牲になられた方々には衷心より哀悼の意を表します。加えて、今なお不自由な生活を強いられている被災者の皆様に対しましては、心よりお見舞い申し上げます。

また、日ごろより夕陽會空知支部の活動に對しまして、夕陽會本部をはじめとする各支部の皆様にも多大な御理解と御協力をいただきたいと思っております。感謝申し上げます。

さて、空知は北海道の中央部よりやや西方に位置し、旧産炭地を数多く抱える二十四の市町からなります。令和元年五月には、空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、それらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた「炭鉄港」のストーリーが日本遺産に認定され、広域的な連携による取組が活発化しています。

空知支部の会員数は、名簿上七十を超えています。しかし、実質活動しているのは、主幹教諭や行政職、管理職が中心であり、世代の継承が大きな課題となっております。また、全国的な傾向である人口減少や学校数の減少に伴う教職員数の減少に對する取り組みが喫緊の課題となっております。新たな会の運営の構築が必要となります。

そのような中、四月の総会では、「ポストコロナ、ウイズコロナを見据え、変貌の激しい時代に生きる夕陽會並びに会員の活動指針としての『創造し行動する夕陽會』の意義を自覚し、個人と組織の力量を高める。」を確認いたしました。そして、五月の新型コロナウイルス感染症の五類以降に伴い、少しずつ以前の活動に戻りつつあります。

七月には教育講演會を四年ぶりに集合形式で行い、本部より風間和夫会長に「夕陽會の現状報告」を、北海道立教育研究所の目黒範和研究主幹には「教育の今日的課題」と題しまして講演をいただきました。「新たな研修制度」等、非常に示唆に富んだ内容であり、研鑽を積むことができました。十月には道央ブロック會議が後志支部の主管により倶知安町で開催されました。札幌・石狩・小樽・後志・空知の五支部が参加し、支部の近況報告や課題の共有を行うとともに、その後の懇親會では和やかに、そして楽しいひと時を過ごすことができました。

今年の干支は甲辰です。陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛、大きく成長し、形が整う年だと言われます。我が夕陽會空知支部も益々「創造し行動する夕陽會」として励んでいきたいと思っております。

支部だより

各界で活躍する夕陽会員



地域経済活性化に向けた行政における取組

種田 美穂
(平成24年地域卒 函館市経済部食産業振興課)

みなさんこんにちは。私は大学卒業後函館市役所に就職し、気づけば次の四月で丸十年が経とうとしています。入庁後は窓口業務や庶務業務を担当し、その後は札幌にある経済産業省北海道経済産業局へ二年間派遣研修に行きました。現在は函館に戻り、経済部食産業振興課にて従事しております。

窓口業務と庶務業務について、詳細は割愛しますが、T H E市役所という無くてはならないセクターです。なので、最初に経験することができ大変勉強になりました。北海道経済産業局では、主にIT産業の振興、生産性向上に関する業務を行ってまいりました。業務の進め方については、ルーティンワークというものはあまりないので、毎年試行錯誤し事業を進めることになりました。一方で様々なことにチャレンジできる環境となつていますので、何をしたいかという意思や意見を持つことが一番重要視されていると感じました。職場の雰囲気としては、電子決裁や電子出勤簿が導入されており、とても先進的な印象です。また紙媒体の保存資料が少なくテレワーク環境も整っています。なにより組織および職員が柔軟かつ迅速に環境の変化に対応していて、見習いたい点だと感じました。派遣の二年間はちょうどコロナによる自粛と重なり活動が制限されていたので、合間を見て大学の学友に再開することができ良い息抜きとなりました。

現在の食産業振興課では、地域資源を活用した食の魅力を発信すべく道外でイベントを実施したりポータルサイトを開設しPRを図っています。今年度は、市内事業者と青森のお祭りに参加しソーセージやピロシキを販売したり、首都圏の大型ショッピングモールでSNSプロモーションやキャンペーンを行ったり、他にも様々な土地でPR活動を行いました。インスタグラム等の各SNSでは、函館の美しい情報を随時発信していますので、みなさま是非「おいしい函館」で検索・フォローをお願いいたします。

また、コロナで中止となつていた「はこだてF O O Dフェスタ」も二〇二三年二月に四年ぶりに開催することができ、多数の出店者と来場者で大変賑わいました。二〇二四年の開催もより一層楽しんでいただけよう現在準備中です。

さらにもうひとつ、カップ麺で有名な凄麺のご当地シリーズ「函館塩ラーメン」が一月にリニューアルしました。リニューアルにあたり、当課も色々と携わらせていただきましたので、見かけた際は是非お手に取ってみてください(蓋裏に当課職員のコメントが掲載されているかも)。最後に、中々当会の活動には参加できていませんが、今回このような貴重な機会をご提供いただいた幹事長であり附属小学校副校長の新田様にはこの場を借りて感謝申し上げます。また夕陽会および会員の皆様様の益々のご発展をお祈り申し上げます。



北海道教育大学で学んだことを生かして

菅原 陽太
(平成29年卒 北斗市経済部水産商工労働課)

私は、平成二十九年に北海道教育大学函館校を卒業しました。出身は道央の富良野市でしたが、大学の四年間を函館で過ごし、道南の気候や食べ物に惹かれ、こちらに残ることを決めました。大学で法律やまちづくりについて勉強していたので、その知識を生かせる仕事をしたいと思いい、公務員試験を受け、北斗市役所に就職しました。

初めに配属されたのは、総務部企画課でした。担当した業務は、北斗市公式キャラクター「ずーしーほつきー」に関すること、函館から木古内を結ぶ第三セクターの道南いさりび鉄道に関すること、国や市の各種施策にも活用されている統計調査に関すること、今や地方自治体の重要な財源となつていふふるさと納税に関することなどを担当していました。業務が多岐にわたり、覚えることがとにかく多く、大変でしたが少しずつ北斗市のことを知ることができました。

配属当初は理解できなませんでした。自分にも子どもが誕生し、子育てをしている中で、高校生までの医療費が無料なことや病後児保育を無料で利用できることなど、子育てをしている身として、本当に助かる制度が多くあるまちだと実感しました。

そして、現在は三つ目の配属となる経済部水産商工労働課で、中小企業への支援に関することや市営駐車場の管理などの業務に従事しています。部をまたぐ異動となり、今まではまったく違う知識が必要となり、今でも毎日勉強の日々となっております。

大学の四年間では、座学で学んだこと以外の部分も社会人では大いに役に立っています。部活動やサークル活動、ボランティア活動、アルバイトなど色々な人とかかわり、経験が今も生きています。今後も大学生活で得たもの生かし、北斗市のまちづくりに貢献できるように、業務に従事していきたいと思えます。

最後になりますが、北斗市役所に在籍している卒業生をはじめ、今後夕陽会の先輩方には業務等でお世話になる機会があるかと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

その1 特色ある活動の母校

北海道教育大学函館校 吹奏楽団

公式HP



北海道教育大学函館校吹奏楽団です。この度は、夕陽会報第二三六号に当団の活動を掲載していただきありがとうございます。当団は、一九七七年（昭和五十二年）に創設されました。これまでの四十七年間の活動の中で、全日本吹奏楽コンクールへ二十八回出場している歴史ある団です。OB・OGの方々の中には、函館近郊や全道・全国各地で吹奏楽の指導にあたり、活躍されている方が数多くいらっしゃいます。現在、当団音楽監督・常任指揮者としてご指導いただいている三笠裕也先生も当団のOBです。昨年の十月に栃木県、宇都宮市文化会館で行われた「第七十一回全日本吹奏楽コンクール・大学の部」では、たくさんの方々に支えられ、銅賞を受賞することができました。今年度の自由曲は、坂本龍一作曲「El Mari Medterrani（地中海のテーマ）」を演奏させていただきました。一九九



第71回全日本吹奏楽コンクール

二年に開催されたバルセロナオリンピックのために作曲されたもので、故・坂本龍一氏の生み出す勇壮で壮大かつ神秘的な美しさが十二分に発揮される魅力的な曲です。坂本龍一氏の世界観を表現したり、解釈したりすることの難しさもありましたが、全国大会では函教大らしいサウンドを響かせることができたと感じております。応援していただいた皆様改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、当団は演奏技術の向上はもちろんのこと、地域社会への貢献と音楽文化の発展、吹奏楽の普及のため、訪問演奏や演奏指導など、知識と経験を活かした取組を積極的に行っています。地域の方々とのつながりを通して、音楽の素晴らしさを伝えたいという思いをもち、日々活動しています。昨年七月に本学で開催された「まなびプロジェクト」では、「一緒に学ぼう！吹奏楽の世界」と題し、地域の子どもたちに対して団員が授業を



北海道教育大学附属函館小学校 訪問演奏

行いました。楽器体験やリズム遊びを通して子どもたちと交流を深め、音楽の楽しさを伝えることができました。また、九月下旬に行われた函館市内の小学校への訪問演奏では、鑑賞や指揮者の体験を行ったり、檜山で行った吹奏楽講習会では、中学生・高校生とパート練習や合同合奏を行ったりするなど、音楽の楽しさを実感してもらうことができました。さらに、北海道・北東北の縄文遺跡群である垣ノ島遺跡で行われた「はこだて縄文まつりin垣ノ島」や、尾札部漁港で行われた「第三十八回南かやべひろめ舟祭り」など、地域のイベントでも演奏させていただきました。大変貴重な経験をさせていただくことができました。



WINTER CONCERT 2023

当団は学生が主体となって活動しており、年に三回開催している当団主催の演奏会（定期演奏会、WINTER CONCERT、春一番コンサート）では、団員が一から企画・運営を行っています。今年度の春一番コンサートでは、中学生・高校生が取り組む吹奏楽コンクール課題曲全四曲を披露したり、少子化による部員数減少の中、吹奏楽活動を継承・発展させるために小編成での演奏の魅力を紹介したりするなど、吹奏楽の可能性や新しい価値が創出されるような取り組みも行っています。吹奏楽団の活動は、良い音楽をつくることや演奏技術を向上させることだけでなく、その過程で、自分の良さや可能性に目を向けながら、社会生活を行う上で様々な力を身につけることにもつながります。また、多くの団員と切磋琢磨しながら活動を行うことで、主体的に考えたり、様々な困難を乗り越えたりしながら、豊かな人生を切り拓くことができると感じています。私たちがこうして活動することができているのは、御指導くださる先生やOB・OGの皆様、日頃より私たちの活動を応援してくださる地域の皆様のおかげであります。夕陽会の皆様におかれましては、いつもご支援いただき誠にありがとうございます。皆様の応援に比べよう努力を重ね、感謝の気持ちをお忘れずに活動してまいります。今後とも北海道教育大学函館校吹奏楽団をよろしくお願いたします。



第38回南かやべひろめ舟祭り

その2 ある活動 特色の 特母校

地域づくりのイベント 〜厚真町での実習を通じて〜

令和五年度地域づく

り支援実習・地域政策
ボランティア実習とし
て、三年生一名、二年

生三名が北海道厚真町に滞在させて
いただきました。本実習では、函館
校の学生に加えて、札幌校、旭川校、
釧路校、北海学園大学の学生も参加
し、計九名がそれぞれ十日間から二
週間、入れ替わりで参加しました。

主な活動として、午前は原木しい
たけの栽培を行う堀田農園さんで栽
培のお手伝い、午後からは厚真中央
小学校に隣接する放課後児童クラブ
を訪問し、子どもたちと交流を深め
ました。そのほかにも胆振東部地震
の献花台とキャンドルナイトへの参
列や、祭り、マルシェといった地域
イベントに関わらせていただきました。

今回は、しいたけ栽培、放課後児
童クラブ、震災をテーマとして取り
上げ、実習生が感じたことや学んだ
ことを紹介します。

【しいたけ栽培について】

まず、自然を相手にしていると強
く実感しました。日差しが強い時期
にはビニールハウスに遮光幕を取り
付けたり、涼しい時期はしいたけが
多く実り、籠いっぱい収穫をした
りするなど、気候の変化に合わせて
農業を行っています。そして、栽培
の中心となるのは、原木を運ぶ作業
です。重い木、曲がった木、細い木
など、形・大きさ・重さが異なる木
を瞬時に見極め、ひたすら運ぶこと
を毎日繰り返すことの大変さを痛感
しました。

原木しいたけの存在は初めて知り
ましたが、栽培のお手伝いや料理を
いただいて、その魅力に気づきまし
た。当事者や関わった人しか知るこ
とができない農産物の魅力をもっと
伝えるために大学生ができることを
考えていきたいです。



【放課後児童クラブについて】

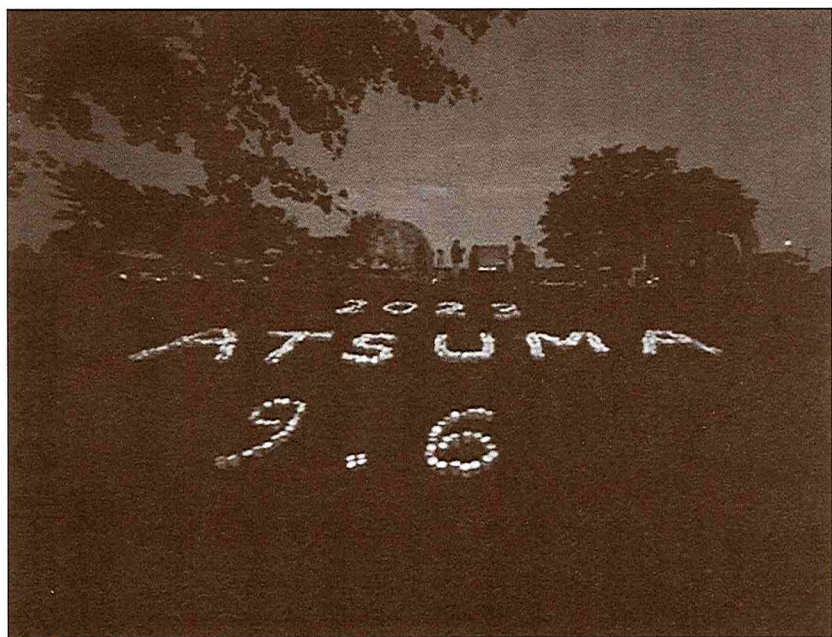
通い続けることで、子どもたちへ
の接し方の正解が分からず、毎日迷
いや葛藤がありました。そのときに
支えになったのは、共に活動する実
習生です。毎晩の振り返りで意見を
交流し、仲間とともに最善の行動を
模索しました。こうした経験から、
常に自分に出ることを考えて行動
することが大切だと感じられました。

子どもたちの様子だけでなく、放
課後児童クラブや支援員についても
深く考えることができました。本実
習に関わった教育委員会の方から、
利益を求めない公的な機関であるこ
とを背景に、変化に乏しい状況であ
ることを課題として示してください
ました。教育委員会の方が子どもた
ちに直接接する機会はないと思っ
ていましたが、実際には放課後子ども
教室やけん玉クラブで子どもたちと
一緒に活動する姿が見受けられまし
た。管理職が現場に触れることで得
られる気付きは多くあり、放課後児
童クラブをよりよい方向に導くため
に、子どもたちと支援員の架け橋に
なる存在として機能しているのでは
ないかと考えられました。

【震災について】

厚真町は胆振東部地震による甚大な被害を受けた地域で、地域住民から当時の状況について話を聞く機会を設けていただきました。その中で「子どもたちの居場所づくり」がキーワードとして考えられました。

震災直後、家屋は瓦礫が散乱し、大人は片付けに追われ、子どもは遊べる場所がなかったそうです。そこで、ezorockをはじめとしたボランティアによる子どもたちが楽しく過



ごせる空間「ハッピースターランド」が作られました。震災時のケアは子どもたちの存在を見逃さず、トラウマを残さない、窮屈な思いをさせないことが必要であることに気づきました。

災害に強いまちづくりにするために、防災に対する意識をもつことが重要です。厚真町での滞在を通して、地域住民の距離が近く、挨拶以上の関係性が日常で形成されているように感じられました。一方で、学校教育

における防災教育について、震災の被害状況に地域差があることで、厚真町内でも統一した防災教育ができない現状にあります。心の傷の深さが異なることで慎重に進めていかなければならず、防災教育と心のケアを同時に行うことの難しさを感じました。

全体を通して、実習生に共通した学びに、「自分のもやもやと向き合う」ことが挙げられました。まちや地域住民に関わり続けることで得られた課

題や疑問を言語化し、他者に発信することで、多様な視点で変わりゆく地域社会の在り方を模索できるようになると考えられます。

地域住民にとっては、ヨソモノ・ソトモノがまちをよりよくしようとする取り組みに対して、住み心地や利便性を阻害すると思われるときもあるでしょう。大学生として、互いが目指すよりよいまちづくりとは何か、地域資源や地域人材をもとに地域住民の「需要」とまちの環境に適した「容量」を理解したまちづくりの提案が求められます。

最後になりますが、実習担当教員の齋藤征人先生をはじめ、ezorockの

たけしさん、たにさん、厚真町教育委員会の齋藤烈さん、厚真町の皆さんには、大変お世話になりました。そして、夕陽会の皆様には温かいご支援をいただきました。本実習に関わってくださった全ての方々へ感謝申し上げます。ありがとうございます。

北海道教育大学函館校

地域教育専攻

三年 渡邊 愛子

国際協働グループ

二年 石森 咲貴

地域政策グループ

二年 高橋 亜弥

二年 伊藤 春乃





函館校の学生の就職状況について

北海道教育大学キャリアセンター長 村田敦郎

夕陽会のみなさまには、平素より北海道教育大学キャリアセンター函館校の活動にご理解ご協力いただき、感謝申し上げます。

令和五年三月に卒業した国際地域学科六期生の就職状況を紹介させていただきます。卒業生二百四十八名の進路別の割合はグラフに示す通り、民間企業54%、公務員19%、教員17%、進学5%と続きます。卒業生のうち、就職希望者（進学およびその他進路を除く）の就職率は97・3%でした。就職先の例を示しますと、アイリスオーヤマ、日本ハウスホールディングス、NTTデータビジネスシステムズ、ツルハ、ニトリ、ヤマダデンキ、東京海上日動火災保険、第一生命保険、トライグループ、JT B、マイナビなどの全国的な企業をはじめ、地元北海道では、よつ葉乳業、北海道味の素、NTTデータ北海道、信濃毎日新聞、イオン北海道、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会、北海道信用農業協同組合連合会など、金融では北洋銀行、北海道銀行、北日本銀行、北海道労働金庫、苫小牧信用金庫、岩手銀行などの各地域の主要企業があげられます。東北・北海道の主要な金融機

関を含む金融業・保険業への就職が多いのは例年通りですが、近年では全国展開している大企業を志望する学生が徐々に増加している傾向にあります。

官公庁では、札幌国税局、財務省東北財務局、国立青少年教育振興機構、東北大学などの国家公務員系をはじめ、都道府県では北海道庁九名、青森県庁に進路を進めております。また市役所・区役所では、函館市十名、滝川市二名、旭川市、千歳市、石狩市、登別市、青森市、川口市、久慈市、仙台市、鶴岡市、盛岡市、横手市、横浜市、京都市、神栖市、大仙市、港区、町村の役場では、森町、仁木町、六ヶ所村などで採用されています。

学校教員としては、北海道十三名、青森県七名、岩手県五名、宮城県三名、仙台市二名、山形県三名、福島県二名、栃木県、千葉県、愛知県、新潟県、愛媛県、沖縄県などで教壇に立っています。また、北海道大学四名、北海道教育大学二名、岩手大学、秋田大学、筑波大学、早稲田大学、明治大学などの大学院に進学し、勉学に励んでいる卒業生もいます。就職活動のうち民間企業の採用に

関しては、新型コロナウイルス禍の影響で採用活動が遅れた一昨年までと比べると、昨年以降内定率は上昇してきているほか、企業によってはかなり早いスケジュールで採用活動を進める傾向になり、三年生の夏休み頃に行われるインターンシップからすでに就活は始まっている場合もみられるようになりました。現在の就職活動はこれまで以上に早期化しており、学生たちも早い段階から就職活動を意識し対応するようになってまいりました。

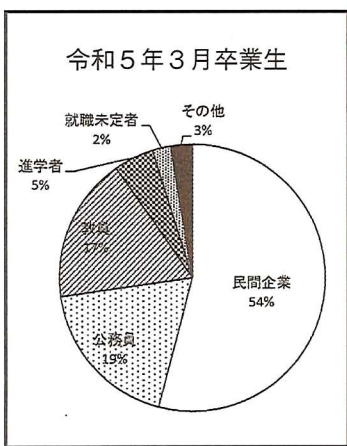
さてここで、キャリアセンター函館校センターの就職支援について紹介させていただきます。函館校では、キャリアセンター函館校センターにおいて、就職支援活動の企画・運営、就職相談等を行っております。キャリアに関する授業科目としては、一年生を対象とした職業研究や社会人基礎力などを学ぶ「キャリアガイダンスⅠ」、二年生を対象とした「キャリアガイダンスⅡ（民間、官庁、教員）」を開講し、早期からキャリア教育を行っております。また、三年生、四年生においては、それぞれ「キャリア開発Ⅰ（民間、官庁、教員）」と「キャリア開発Ⅱ（民間、官庁、教員）」を開講し、採用試験の直前まで指導を行っております。

これらの普段の活動にくわえ、函館校ではこれまで年明けに実施していた業界研究会や合同官庁説明会を一ヶ月前倒しにして、今年度は十二

月に開催いたしました。また、札幌で実施される本学全体の合同企業研究会についても、企業の選考が早期化していることから、例年三月に実施していたところ、今年度は二月に実施いたしました。函館校では学生のためにシャトルバスを運行しての参加をおこない、様々な面から学生の就職活動のサポートに取り組んでおります。

アフターコロナの現在、前述しましたように就職活動も今までにない早さで進むようになりました。函館校キャリアセンターでは世情を鑑みた学生への就職支援を一層強化していきますので、各界でご活躍の卒業生のみなさまからのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後にお願いを申し上げます。就職先でも示した通り、卒業生の活躍の場は全国に広がっています。全国の夕陽会のみなさまから、各地域の学校現場の状況や各都道府県の教員採用試験の情報など夕陽会本部を経由して、キャリアセンターへお届けいただけると幸いに存じます。



特集 母校のいま、学生の学び

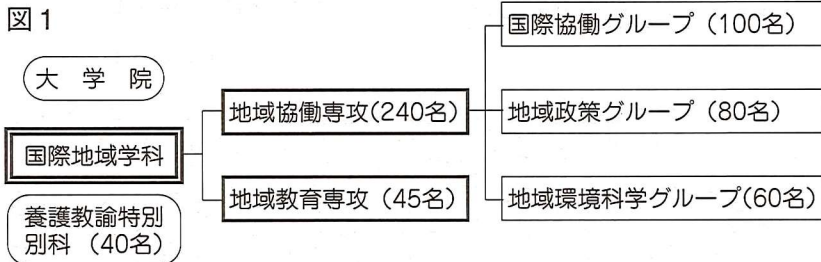
北海道教育大学函館校 国際地域学科講師(国際協力論) 津曲真樹

国際地域学科の構成

国際地域学科は、国際的な視野と教育マインドをもち、豊かなコミュニケーション能力を発揮しながら、地域を活性化できる人材を養成することを特色としています。平成二十六年に学科が設置されて以来、地域の再生を担う人材、国際的に羽ばたける人材、さらに教員や指導員として地域の教育や社会福祉に貢献できる人材が、函館校から数多く社会に飛び立っています。

国際地域学科は、国際的視野をもって地域社会の諸問題を解決できる人材の育成を目指す「地域協働専攻」と、グローバル化する現代社会の地域が抱える教育課題を解決できる人材の育成を目指す「地域教育専攻」といいます。前者の「地域協働専攻」は、国や民族・地域・文化・社会の違いを超えて共に行動するための協働力を身につける「国際協働グループ」、地方行政やまちづくりを担うためのネットワーク構築力と実行力を身につける「地域政策グループ」、そして地域の環境問題を解決するための科学的な方法と技術を身につける「地域環境科学グループ」という三つのグループから成っています。それぞれのグループでは、主に人文科学(国際協働グループ)、社会科学(地域政策グループ)、自然科学(地域環境科学グループ)の知識を習得しながら、さまざまな地域課題の解決に取り組んでいます。後者の「地域教育専攻」では、

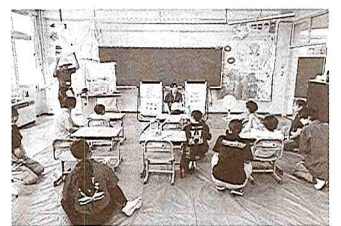
図1



【写真1】

学科生全てに期待される資質の醸成のために、関連する諸科学を国際的な観点から結びつけ統合することが必要であり、また、地域振興を担う人々を育成するという意味で、実践的な教育学的視点も大切です。そのために国際地域学科では、「教育」を基軸としつつ、統合的な知を養う実践の機会を重視しています。その代表的な取り組みとして、地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うための「地域プロジェクト」が全学生必修科目(二単位)として設定されています。

小学校教諭1種免許状の取得を卒業要件としており、小学校教員や特別支援学校教員などの養成に取り組んでいます。(図1は国際地域学科の構成と令和五年度募集における定員数)



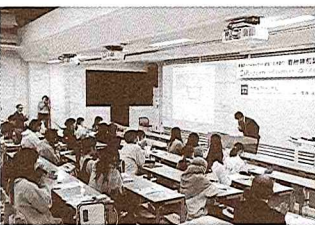
【写真2】

地域の現場が抱えている課題を抽出し、その解決を図るために学生がチームを組んで主体的にプロジェクトの構想策定から実施に取り組みんでいます。(写真1)は、函館市「1」は、生理の貧困プロジェクト」メニュー「生理の貧困プロジェクト」メニュー

地域協働専攻の取組み

地域協働専攻の取組みとしてはじめに挙げるのは、「国際地域イノベーター」人材養成プログラム(通称「国際地域イノベーター」)です。いくつかの基盤科目および共通科目とともに、「日本語学習支援専攻」または「地域づくり専攻」のいずれかを選んで授業を履修することで、最終的に「国際地域イノベーター(日本語学習支援/地域づくり/観光まちづくり)のいずれか」の認定資格を取得することができるといいます。令和三年度より始まったこのプログラムは、地域教育専攻所属の学生も受講できますが、基本的には地域協働専攻所属の学生が多く取り組んでいます。

なお、国プロ基盤科目の支持科目(二単位)として開講されている「国際地域リーダー論」では、全国スリーパーマーケット協会ならびに株式会社北洋銀行のご協力を得て、各界で活躍されるトップクラスの方々を講師として迎えた「寄附特別講座」を



【写真3】

地域教育専攻の取組み

地域教育専攻の特色ある取組みとして、「サマースクールin函館」を取り上げます。今年度で二十七年目を迎えた「サマースクールin函館」

は、函館市内在住の障害のある児童生徒を対象とした余暇支援事業としてすでに広く認知されています。一方、甘んじていることな進化するプログラムは

実施しており、学生が実社会に関する世界観を拓ける機会となっています。(写真3)は、長野五輪スキージャンプ団体金メダリストである雪印メグミルク株式会社北海道本部・副本部長 齋藤 浩哉講師への拍手喝采の場面) 地域協働専攻の取組みとして次に挙げるのは、「海外スタディツアー」です。地域協働専攻のうち国際協働グループの学生は、卒業までにいくつかの海外体験型科目を履修すること、つまりは「国外に出てさまざまな体験をすること」が求められます。海外体験型科目には交換留学や語学短期研修、海外インターンシップなど多様な選択肢があり、「海外スタディツアー」はそのなかのひとつです。この科目は、学生たちが教員らの引率のもと複数のグループに分かれて諸々の国・地域に出かけ、それぞれの国の大学や企業、コミュニティなどを訪問して国際的な見聞を広めます。令和五年度は韓国、クロアチア、タイ、中国、ニュージーランドへの渡航が計画・実施されており、令和六年度には渡航先にオーストラリアとネパールが加わる予定です。



【写真4】

言えましよう。そして、国内外や社会情勢の変化に伴い、参加する対象を障害の有無にかかわらず、特別な教育的ニーズのある児童生徒と捉え実施し、さらには年長児の就学体験の場としての機能をもたせ、障害の有無にかかわらず、年長児が小学校の空間で生活すること、就学に向けた体験の機会をも提供するに至っています。活動の企画・運営は教育大函館校の教員と学生（多くの地域教育専攻所属）が組織する「サマースクールin函館実行委員会」が行い、地域教育専攻の専攻科目「フィールド研究Ⅰ」として取り組む学生には二単位が付与されます。実行委員会による入念な準備を踏まえた「サマースクールin函館2023」は、八月七日十日の日程で函館八幡小学校を会場に実施されました。（写真2）は、楽しみにしていたその日を迎えた参加者の真剣なまなざしが伺える様子）

函館校全体の取組み

最後に、それぞれの専攻の枠を超えた、函館校全体の取組みについてご紹介しましょう。

第一は「国際地域研究公開シンポジウム」（令和五年八月三十日開催）です。令和五年度のシンポジウムでは、「国際地域研究の座標軸―未来への足がかりをどう築くか―」というテーマが探究されました。京都精華大学のウズビ・サコ教授（全学研究機構長）より、「グローバル化する日本における地域社会の役割を考える」と題した基調講演をいただいた後、本校の齋藤 征人教授より「多文化化する地域社会を担う人材育成

の試み」のテーマでの講演、やはり本校の有井 晴香准教授からは「親子」のつながりを紡ぐケアと暴力・エチオピア西南部の事例から」というテーマでの講演があり、その後のパネスディスカッションではこれら講演を踏まえて示唆に富んだ議論が展開されました。



【写真5】

交換できる三大学合同企画「パブリック・プラットフォーム」等、学外との接点も豊富な内容が満載であり、キャンパス内が活気に満ちた二日間となりました。（写

第二は「まなびプロジェクト」（令和五年九月十三日開催）です。この企画では小学生に一日大学生の体験をしてもらい、「必修授業」と「選択授業」のどちらも受講した小学生に修了証書が授けられました。必修授業では蛇穴学長（当時）及び後藤理事のほか、函館校教員による講義が行われ、選択授業では学生サークルや近隣の自治体、企業、岩見沢校などによる、工夫を凝らした授業が展開されました。さらに、地元福祉団体や学校による販売コーナーも設けられ、どの会場も大変な賑わいとなりました。（写真4）は、まなびガチャに取り組み「一日大学生」第三は「函教祭（かんきょうさい）」（十月十四・十五日開催）です。「ARISE」をテーマに、新型コロナウイルス収束後の新しい学校祭をイメージして様々なイベントが二日間にわたって繰り広げられました。小学生を対象とした、前述の「まなびプロジェクト」の大人版である「おとなカレッジ」の実施や、函館市内のはこだて未来大学、北海道大学水産学部の学校祭のパンフを合わせて集めると商品と交換できる三大学合同企画「パブリック・プラットフォーム」等、学外との接点も豊富な内容が満載であり、キャンパス内が活気に満ちた二日間となりました。（写

真5）は、待望の模擬店復活に笑顔がこぼれる出店者たち）最後は「はこだて高等教育機関合同研究発表会（アカデミックリンク）2023」（十一月十四日開催）です。四年ぶりの対面開催で函館アリーナを会場に実現し、函館市内に八つある高等教育機関計五十七団体の参加となりました。その内訳はブリスセーションに四十七団体、ステージセーションに十団体という出展でした。研究内容や成果などに関する活発なコミュニケーションを経ての厳正な審査の結果、教育大函館校の四

会務報告

幹事長
新田 英樹
(平成4年卒)

（一般会務）

11/3	函館・渡島北師同窓会懇親会へ会長が出席する	(法華クラブ)
11/13	北海道教育大学 田口新学長との懇談・昼食会へ会長が出席する	(母校)
11/11	第1回本部役員会が開催される	(亀田交流プラザ)
11/23	夕陽会道東ブロック帯広十勝会議（zoom）へ会長が出席する	(zoom)
12/2	指導主事等会研修会へ会長・幹事長が出席する	(札幌)
12/2	函館校モダンダンスクラブ発表会が開催される	(札幌)
12/12	北海道教育大学と五校同窓会長懇談会へ会長が出席する	(札幌)
12/17	函館校吹奏楽団ウィンタールコンサート2023へ風間会長が出席する	(芸術ホール)

チームが栄えある入賞を果たしました。（写真6）は、ステージセッション優秀賞を受賞した村田ゼミの「道南と青森をつなぐオシラサマ」プロジェクト「チーム」



【写真6】

12/13	第2回学生支援事業を開催する	会長・副会長・幹事長・学生支援部長（夕陽記念館）夕陽会特別支援学校支部総会・研修会が開催される	(zoom)
1/6	楽友同窓会 総会・懇親会が開催される	(函館市)	
1/11	北海道教育功績者表彰祝う会へ風間会長が出席する	(函館市)	
1/20	函館市役所 北海道教育大学卒業生懇親会が開催される	(函館市)	
1/27	後志夕陽会勇退感謝の会へ会長が出席する	(函館市)	
1/27	胆振夕陽会大懇親会へ会長が出席する	(蓬岫殿)	
1/31	網走連合支部総会が開催される	(北見市 遊牧民族)	
2/5	函館校110周年記念事業実行委員会へ会長と幹事長が出席する	(母校)	
2/10	北海道教育委員会教育長と五校同窓会長懇親会へ会長が出席する	(札幌)	
2/17	日高支部懇親会へ会長が出席する	(新ひだか町 天政)	
2/17	檜山支部総会・先輩を送る会へ会長が出席する	(札幌)	
2/26	青森西北五支部総会へ幹事長が出席する	(五所川原市)	
2/26	第2回本部役員会が開催される	(附属特別支援学校)	

特集

母校の「学徒出陣」

島津 彰 (昭和48年卒)

1 繰上げ卒業と士官への道

(1)陸軍、海軍の合格
「学徒出陣」といえば、昭和十八年(1943年)十月二十一日に行われた、雨の中



(玄関前の出陣者)

2 昭和十八年の卒業論文

北方教育資料館(夕陽記念館)には「師魂」と題する卒業論文集が残されている。戦争が激しさを増す中で、若者の師範学校

3 昭和十八年卒の戦死者

市田 豊氏は「体育雑感」で、体育が好きな良き教師になりたいと冒頭に記している。教壇に立つていたならば、体育好きの子供達を数多く育てたいと、体育好きの子供



(富沢海軍少佐)

は、また隣室に函館高等水産学校(現

4 家族を想う遺書

(1)富沢幸光氏(第十九金剛隊)
三重海軍航空基地で訓練中に母親から届いた手紙を大切に保管。(「反中」の最初の

5 他の卒業期の戦死者

函館師範学校時代からの戦死者の総数は判明分が五十五名である。卒業年次では大正十年卒業生の日華事変の戦死者は昭和

6 終戦の追悼文

「懐かしい兄であり、十九年夏に休暇で家に帰ってきた時は、押し入れに休んであった書籍を引つ張り、押し入れを懐かしく

前納会費納入会員名簿追加分

阿形 昭 静岡 昭56 岩本 秀樹 函館 平13院

(敬称略 令和6年3月1日現在)

夕陽會員計報

- 柿崎 陽一 氏 昭31 I 4.3.22 逝去
伊達市梅本町50の55柿崎幸恵様 妻 敏氏
谷口 貞雄 氏 昭36 I 5.1.31 逝去
苦小牧市永福町2の13の24
長川 健一 氏 昭32 II 5.3.15 逝去
群馬県伊勢崎市堺保泉1の7の9 長男 康司氏
初谷 和子 氏 昭27 II 5.4.1 逝去
函館市美原1の32の23 不明
千葉 俊司 氏 昭36 II 5.5.20 逝去
北斗市向野2の2の61 妻 紀子氏
中田 好子 氏 昭24 二女 5.6.19 逝去
釧路市武佐4の15の2 家族 宮尾素子氏
田淵 保夫 氏 昭24 5.7.2 逝去
東京都目黒区目黒3の1の7の103 妻 貞氏
加藤丁都夫 氏 昭30 II 5.7.30 逝去
函館市日吉町1の16の7 不明
黒沢 一雄 氏 昭24 5.7.31 逝去
七飯町大川9の2の4 妻 早和子氏
笠島 博 氏 昭60 5.8.10 逝去
小樽市山田町1の24の701 妻 喜重子氏
大沼 雅敬 氏 昭22 5.8.27 逝去
札幌市石室通5号の1 妻 千佳子氏
白木 輝雄 氏 昭30 I 5.9.24 逝去
函館市亀田本町1の16 妻 道子氏
富田 泰 氏 昭42 5.9.27 逝去
札幌市東区北44条東10の3の1 妻 千佳子氏
島田 誠 氏 昭31 I 5.10.1 逝去
函館市深堀町13の33 長男 丈氏
岩崎 泰夫 氏 昭34 I 5.10.6 逝去
恵庭市恵み野西6の6の13 妻 邦子氏
本多 祥二 氏 昭33 I 5.10.17 逝去
函館市時任町15の18 妻 れい子氏
藤田 博章 氏 昭34 II 5.11.1 逝去
函館市日吉町2の17の11 長女 鈴木朋子氏
宮野 淨治 氏 昭36 I 5.11.4 逝去
函館市赤川1の13の9 妻 陽子氏
伊東久美子 氏 昭40 I 5.11.6 逝去
函館市深堀町38の3 長男 俊博氏
高坂りゆう子 氏 昭31 II 5.11.9 逝去
北斗市千代田35 おい 重勝氏
齊藤 喜孝 氏 昭15 第一部 5.11.19 逝去
秋田県横手市十文字町上鍋倉字下屋布4の1 不明
奥谷 雅喜 氏 昭32 II 5.12.1 逝去
函館市富岡町2の54の13 長女 佐々木明子氏
矢木 匠 氏 昭40 I 5.12.2 逝去
札幌市東区東苗穂14条2の15の2 妻 妙子氏
原 功 氏 昭30 II 5.12.3 逝去
札幌市白石区菊水2条3の1の106 妻 八重子氏
松崎満州夫 氏 昭33 II 5.12.3 逝去
七飯町本町153の31 妻 勝子氏
山田 悟郎 氏 昭45 5.12.6 逝去
恵庭市恵み野西6の8の10 妻 敏子氏
福士 優氏 氏 昭51 5.12.6 逝去
函館市深堀町9の16 妻 幸子氏
山本 亨 氏 昭35 II 5.12.18 逝去
札幌市南区真駒内緑町2の14の103 妻 亜弥氏
三橋 誠司 氏 昭46 5.12.21 逝去
北広島市里見町4の8の15 妻 三枝子氏
大西 弘美 氏 昭31 II 5.12.23 逝去
札幌市南区北の沢9の12の6 不明
木村 修治 氏 昭61 5.12.29 逝去
吉崎 友康 氏 昭60 長男 宗太郎氏
北斗市久根別2の21の19 妻 裕美氏
原 修 氏 昭30 I 6.1.30 逝去
小樽市築港12の1012 ベイシテイガーデン小樽フロントB 不明
武井 恒夫 氏 昭34 II 6.2.5 逝去
函館市日吉町2の33の21 妻 悦子氏
野田(川橋)敏子氏 昭24 二女 6.2.8 逝去
函館市日吉町2の24の2 長男 直彦氏
乳井 幸教 氏 昭41 I 6.2.12 逝去
函館市美原3の46の15 妻 喜美子氏
宇留間 準 氏 昭55 6.2.17 逝去
札幌市厚別区天谷地東3の4の1の303 妻 裕美子氏
青柳 信昭 氏 昭32 II 6.2.18 逝去
札幌市清田区平岡10条2の2の5 妻 京子氏
加茂 國興 氏 昭45 6.2.22 逝去
函館市美原5の43の7 妻 伊佐子氏
新家 健明 氏 昭24 6.2.28 逝去
札幌市西区山の手2の1の2の25 長男 正裕氏
(令和6年3月1日現在)

令和6年度 北海道教育大学夕陽會 本部總會・大懇親會・全国支部長會議のお知らせ

日時 令和6年6月29日(土)
会場 函館国際ホテル(〒040-0064 函館市大手町5番10号 ☎0138-23-5151)

- 令和6年度 全国支部長會議 13時30分~15時30分
令和6年度 總會 16時~17時
令和6年度 大懇親會 17時30分~20時

編集後記

令和六年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日でも早く日常生活に戻れますことを心よりお祈り申し上げます。

事務局より応援をいただきながら、会報発行に向けて準備を進めて参りました。またご多用の折、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

激動の折、本号で紹介のように会員の皆様各界で活躍しその功績が認められ各種受賞(章)されておりますこと心よりお祝い申し上げます。年初より函館近郊は積雪が無い日が続き、札幌在住者がこの冬に来函した際には同じ北海道の冬でもその景色の違いに驚きながらも春の足音を感じていたようでした。

二月には河津桜満開が報道され、道内においても二〇二四年の桜前線に関心が集まってきました。今年に桜の開花は平年並みか平年より早めと予想されています。これからも母校の発展と学生や同窓の皆様のご活躍ご多幸を祈念しながら、夕陽會報第二三六号をお届けいたします。

(情宣部長 近江 辰仁 記 昭63卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽會本部事務局
電話番号(01338)46-22235
夕陽會専用070-8521-9110
FAX番号(01338)47-73376
e-mail:sekiyoukai345520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)